八王子市は緑豊かな自然を多く残す人口50万の中核都市だ。都の南西部に位置し、交通の利便性と自然環境に恵まれていることから人口増加が続いているが、今後もその傾向にかわりはないだろう。江戸時代は甲州街道の宿場町、また織物のまちとして栄えてきた。その名残は今も至る所にとどめるが、最近は、21大学・短大、11万人の学生を擁する学園都市としての顔で有名である。首都圏に通うサラリーマンのベッドタウンとして住宅需要が急増している多摩地区の中心でもある。

京王沿線北野駅の周辺地区もこういった八王子の特徴を多くとどめている。北野駅からは東京のオアシスとして名高い高尾山への支線がでており、休日などは登山客や家族連れで電車内はにぎわっている。また、沿線には、中央大学、日本工科大学、法政大学、家政学院大学、ちょっと離れて多摩美術大学、都立大学、造形大学などがある。そして京王線北野駅、横浜線片倉駅に囲まれた地区は、30

八王子市は緑豊かな自然を多く残す人口50万の中核都市だ。都の南西部に位置し、交通の利便性と自然環境に恵まれていることから人口増加が続いているが、今後もその傾向にかわりはないだろう。江戸時代は甲州街道の宿場町、また織物のまちとして栄えてきた。その名残は今も至る所にとどめるが、最近は、21大学・短大、11万人の学生を擁する学園都市としての顔で有名である。首都圏に通うサラリーマンのベッドタウンとして住宅需要が急増している多摩地区の中心でもある。

京王沿線北野駅の周辺地区もこういった八王子の特徴を多くとどめている。北野駅からは東京のオアシスとして名高い高尾山への支線がでており、休日などは登山客や家族連れで電車内はにぎわっている。また、沿線には、中央大学、日本工科大学、法政大学、家政学院大学、ちょっと離れて多摩美術大学、都立大学、造形大学などがある。そして京王線北野駅、横浜線片倉駅に囲まれた地区は、30

年ほど前から、住宅供給のために丘陵地帯を切り崩して開発した大型住宅地が軒を連ねている。この地区を「まちづくり」の対象として検討する。（資料１、２、３）

**問題の所在**

１．京王線北野駅は八王子の東の玄関として位置づけられ、それにふさわしい魅力ある地区を形成していく上でも地区区画整理は欠かせない事業となっている。昭和６１年に北野駅南口地区と打越地区の区画整理事業がスタートして、平成１５年には完成する見込みである。しかしそれに伴う駅前の青写真は未だ明確になっていない（資料４）。と同時に、横浜線片倉駅と北野駅を結ぶ北野街道には公共交通手段がなく、有機的な結びつきが阻害されている。

２．北野駅南口に広がる丘陵地帯は基本的には一戸建住宅を中心とした住宅地として開発され、ほぼ開発をし終えている。入居当初は、多くは小学生を抱えるサラリーマン家庭

であったため、小学校が三つ、中学校が一つ建設された。しかし子どもの成長とともに、その数は減少し、１９７６年開校の片倉台小学校（７学級）は現在生徒数２００名（開校当時の４分の１以下）、高嶺小学校（１２学級）は生徒数３９２名（開校当時の３分の１）、中山小学校（６学級）は１４０名（開校当時の３分の１）となっている。同時に中山中学校の生徒数も３７０名、開校当時の２分の１以下となっている。このような小学生の減少によって、そのあき教室の有効利用が求められている（資料５，６）。

３．小学生の減少はそこに住む住民の高齢化を意味している。八王子市全体より高い高齢化率を示している関係上、早急な少子・高齢化対策が必要であろう。八王子市全体の高齢化率は１４．２５％であるが、この地区は１７％から２１．４３％という高率になっている。しかも、この地区は丘陵地帯の住宅地区といった関係上、高齢者が住みにくい地区

でもある。一例を挙げるならば、冬の雪かきがある。毎年冬、1回以上の積雪をみるこの地区では雪かき問題は生命にも関わる問題である。老人のスリップ転倒は命取りにもなりかねない。自治会では老人世帯を中心として、雪かきボランティアを募っているがなかなかうまくいっていないのが現状である。

4．交通量の増加、それも自家用車の増加は目に余るものがある。北野駅、片倉駅では朝、夜ともなると、送り迎えの自家用車が列をなしている。運転手は主に専業主婦である。公共交通手段がない、あるいは少ないという問題、丘陵地帯であるため徒歩には困難が多少ある、等ということからの自衛策であるが、効率的な交通手段が必要とされている。交通事故の多発も見逃せない。ちなみに我が家の娘も片倉駅までへの自転車による通学途上、横断歩道上で車との衝突事故に遭遇している。

5．ここで育った若者たちの多くが仕事を持つようになってきている。若者たちの働き

方からいって、都心まで2時間近くかかるこの地区からの通勤はかなりの無理がある。若者の都心部への流出があり、老人のみ世帯が増えている。家の居住空間に余裕があることから、地元大学との提携によって外国人学生のホームステイ先としても期待されている。以前、法政大学でのイギリス日本語学科学生の夏休みスクーリングでホームステイ先の募集があった。これからの国際交流として住の部分での提供を促進することは、国際理解を深めることになるだろう。地区は少し離れるが、八王子の北東地区にＪＩＣＡの研修所があり、地域小学校や中学校と交流を図っている。

６．地域商店街の衰退については前回の「身辺観相学―新興住宅地のひかりと影―」で示したとおりである。大型生協の店舗の出現で地区商店街は閉鎖商店が増え、シャッターをおろしたままのゴーストタウン化している（資料７）。大型生協の出現による買い物

の利便性のみならず、そこに主婦や学生の雇用を生み出していることとも関係がある。景気の低迷化は専業主婦をパートへと駆り立てる。収入の伸び悩みとともに、高騰する教育費が家計を圧迫しているのである。しかし、都心から、また最寄り駅から遠い、不便という地理上の制約から、パートの働き口が近くに求められている。

**問題の解決に向けて**

この地区の「まちづくり」のキーワードは、1から6までの問題の所在からして、**高齢化・地場交通・雇用・緑**にしぼって考えたい。また、活用できる既存施設としては、**各地区自治会館、大学セミナーハウス、市役所北野事務所、重度障害者通諸施設（市）**、等があり、協力団体としては、**各自治会、京王帝都電鉄、市役所、ワーカズコレクティブ（総菜や、宅配弁当や、パンや、助け合いワーカーズ）、地場農業者（有機農業者）、地場酪農家**などがある。

**駅前タウンホール構想（資料８）**

いま、北野駅北口に北野事務所がある。２階建てのかなり老朽化した建物であり、寂しさを免れない。そこで南口区画整理地区の京王帝都所有の土地に移転させ、これをタウンホールとして、行政の中心とともに、文化と地区活性化のための拠点とする。イギリスではタウンホール（市庁舎）を中心としたまちづくりが行われている。と同時に各地区に点在している教会やシビックセンターがきめ細かなサービスを提供している。拠点の必要性を痛感する。

北野駅南口タウンホールには、八王子市の北野事務所とともにミニシアター、物産販売所、喫茶、インフォメーションセンター、ジョブセンターがテナントとして入居する。

**ミニシアター**：八王子には映画館が１館しかない。それもかなり派手な商業地区にあり、老人や若者、子どもたちが行きにくい場所となっている。阿佐ヶ谷のラピュタ館に見られ

るように、朝の時間帯は高齢者の客が多く詰めかけている。そこで、シアターの運営には、朝の時間帯（高齢者）と、昼（子ども、中・高校生、主婦）、夜（勤労者、学生）といったようにそれぞれのニーズに合わせた上映作品と上映時間を設定する。料金も１０００円にすることによって、かなりの集客力が期待される。というのも、１８００円では高いからだ。様々なサービスデイには、映画館はかなりの混雑を呈している。料金の安い日をねらっているからだ。質の高いものを低料金で提供する。そのためには大学の映画サークルや映画好きの市民の協力を得たい。運営はＮＰＯが行う。

**物産販売所**：北野街道を西に進み、１６号をわたると農地が広がっている。ここでは、有機農業を長年やっている鈴木さん親子が農業にいそしんでいる。彼を中心に八王子有機農業ネットワークをつくり、支援するとともに販売を北野の地場産物にする。健康・安全

に対する関心の広がりから、北野・由井地区の農業を守ることは多くの人の共感を得るとともに、環境面から考えても緑地保全に貢献する。

酪農についても磯沼牧場の存在は大きい。ここで搾乳されるミルクを原料にして、ヨーグルト、ソフトクリームなどの乳製品の販売は商品の画一化が進んでいる現在、大きな反響を呼ぶものと思われる。事実、家政学院大学の近くにある小さなアイスクリームスタンドは地場の酪農家が開いたものだが、マスコミなどにも取り上げられ、車で食べに来たり、買い物にくる客が多い。多少値が高くても、十分商売として成り立っていくであろう。由木ファームもあるので、こことも連携していきたい。

もちろん地区小学校と連携して、農業教育の一環として取り組むことも必要であろう。こういった教育の外部化に対しては、教育NPOに委託する。消費者教育、環境教育など

も同様であろう。学校は何でも自分たちでやろうとせず、広く地域に解放され、地域の人材を有効に使うことで教育の効率化を図る必要があろう。総合の時間がこれに該当する。

**喫茶**：人が集まるところ、休憩場所が欲しい。喫茶室の運営である。出来たら、障害者施設に通う人たちの雇用促進の場に出来たらと思う。それもおしゃれな喫茶でなければならない。なぜスターバックスがあんなにも人気を呼んでいるのか？　また、由木地区、北野台地区には天然酵母を使ったパン作りをしている工房がある。これらのパンも販売するなり、喫茶部門でサンドイッチとして使うことはコマーシャル効果が大きい。

**インフォメーションセンター**：このタウンホールを運営したり、まちの活性化のために活躍するＮＰＯ団体の事務所を中心に、地区活性化のためのインフォメーションセンターとする。誰でもが自由に訪れることが出来るようにする。場所の提供とインフォメーショ

ンセンターの運営は市が行う。

**ジョブセンター**：ジョブセンターの運営は本来なら市が運営するのがよいと思うが、なかなか自由な発想で業務を行うことができ難いという側面もあるので、「仕事場開発公社」といったような半官半民の組織で行う。仕事斡旋業をするのだ。働きたい人の登録、こんな仕事をしてもらいたい人の登録、それの交通整理を行い、両者からマージンを取ることで、仕事としての自立性を高めていく。リサイクルショップを思い浮かべて欲しい。売りたい人、買いたい人の出会いの場をつくっているのだ。６５歳以上の人、若者の登録を積極的に行う。また、近くで働きたい主婦にとっても十分活用できる内容とする。もちろん、こんなことが出来る。こんなものをつくっている、といった有形・無形の才能の発掘と利用の場にしていく。

以上がタウンホールの中身である。このホールを多くの人が有効に使い回していくため

には、ここへのアクセスが容易でなければならない。ミニバスの運行で、きめ細かなルートを提供し、多くの人が北野駅こそ我がタウンの中心であるということを身をもって実感することが大切である。

**ミニバスの運行**：前にも述べたが、北野駅と片倉駅をつなぐ公共交通手段がない。そこで提案されるのは、北野駅から各団地内をめぐって、片倉駅にで、さらに北野駅へと循環するコースである。当然タウンホール前にはミニバスのロータリーも設ける。現在運行しているのは、北野駅からメイン道路沿いに北野台大公園を通って片倉台へというルートだけであり、１０分に１本の割合である。京王バスが運行しているが、ルート延長としてまず京王バストの交渉が必要であろう。模式本会社によって運行されれば問題はないが、これがダメな場合には、独自での運行が必要になってくる。この巡回ルートと同時に、各団地内をまわる横断ルートバスも検討されなけ

ればならない。駅への自家用車の乗り入れを制限して、ミニバスできめ細かに対応する。これは雇用の創出ともなる。自分たち地域のものが運行する地域バスである。

**憩いのある駅前広場（資料９）**：建物が建った。バスのロータリーが出来、アクセスも確保された。

だがそこが殺伐とした空間では誰も集わないのは目に見えている。幸い、駅前には湯殿川が流れている。そこで「湯殿川チェリーブロッサムストリート」計画の実施が求められる。桜の木は成長が早く、多くの人を楽しませてくれる。北野台地区にある白山公園には２０年ほど前に植えられた桜が今や大きくなって、立派な花を付けている。季節になると、多くの人がここを訪れ、ピクニックが展開される。はるばる他地域から来る人も多くなってきている。というわけで、日本人と桜は相性がいいようだ。市の緑地推進部門が担当する。

北野駅周辺を中心としたグランドデザイン

を描いてきた。これらのグランドデザインが実行力あるものとして機能するためには、駅を中核として組織される各自治会、それぞれの地域が生き生きとして、元気でなければならない。相互作用であるからだ。応用編としての地域活性化、つまり「私が住みたいまちづくり」であり、地域の人ひとりひとりの登場である。21世紀は男女平等参画社会である。どうしても新興住宅地は都心へ通うサラリーマンとその家族がほとんどで、地域には子どもと主婦、リタイアした高齢者しかいないといった構成になっているが、これからは地域での生き甲斐つくり、仕事つくりを男性も女性もしてしかなければならない時代といえる。

**西武北野台ショッピングセンターの再生**（資料10）

このショッピングセンターから商店が撤退してしばらくなる。このショッピングセンターがここに住む人々の心のよりどころとなっていくために必要なものとして第一にあげられるのが「レストラン〇〇〇」の開店だ。高齢者の余暇利用は何もゲートボールだけではない。昼間一人で食事をとる高齢者も多くなってくる。もちろん宅配弁当はあるが、それだけでは味気ないし、ひとびとと交流が図れない。老人会にはいるのもよし、だが入りたくない人だっている。そこで誰でもが気軽に利用できる我が町のキッチンとしてのレストランの効用は大きいのではないだろうか。国立市で運営されている「レストランザラ」は、お年寄りのたまり場的存在になっているとともに、地域に開かれたレストランとして、今年で三年目になる。野菜や魚を中心としたメニュー、程良い味付け等が評判だ。コミュニティ・ビジネスとして成り立たせていきた

い。経営者を募集する。と同時に株式ならぬ債券を発行して、一口一万円、返済は三年目から、でそれまでの利息は、毎月一回のお食事券。目標は三〇〇万円でスタートだ。また、スタッフも募集する。地域を捜せば栄養士の免許を持っているもの、調理師の免許を持っているもの、料理上手、インテリアコーディネーターと様々な人材がある。「今、ここで働くことは、ずっとここで住み続けていくための助走である」といった動議付けで募集を行いたい。健康で安全に住み続けていくために私の出来ることを捜すのだ。宅配弁当やの協力なども得て、さらに会員募集を行いたい。会員優先のレストランではなく、みんなで支えるといった賛助会員だ。このレストランは食事だけでなく、憩いの場であるというコンセプトから、壁面を使っての絵画展、書展、および手作り小物等の作品販売などにも利用したい。今、静かなブームになっているフェアトレードを売り物にしてもいい。子どもた

ちのちょっとしたお小遣いで買い物できる品揃えが嬉しい。

**第二は、公園ママたちのたまり場ルーム。**ショッピングセンターの前の大公園は緑多い公園となっている。子どもが少なくなってきていることから、この公園に集中的にママと子どもたちが集まってきている。お天気の時はお弁当も広げられるが、寒いとき、雨の時など、やはり屋根付きのたまり場が欲しい。「**ママトンキッズ**」と名称して**NPO**の活動で運営したい。つまり専従スタッフを置き、会費と市からの補助金で運営する。出来たら、午後は学童保育クラブとして、小学生に開放したい。さもなければ、ここのスタッフが、小学校のあき教室を利用して、学童保育クラブを併せて運営するのだ。夏休みなどは期間を区切って、子どもの喜びそうなプログラムを用意し、有料のプレイルームとする。

**第三は、リサイクルショップ。**一戸建ということで、収納に余裕はあるだろうが、多

くの不要品が眠っていると思われる。イギリスには至る所、「オックスファム」があり、地域に根ざしたリサイクル運動と社会運動を展開している。私には不要にはなったけど、十分使えるものはいくらでもある。そのルートを付けることが求められている。楽しくリサイクルを合い言葉に地球環境に易しい生き方を提案することも地域活動の役割といえる。

**第四は、「ねこバス」運行会社だ。**車がないと動きづらい丘陵地帯にとって、車の運転が出来なくなることは行動範囲が極端に狭められることにつながる。そこで住民の「猫の手」ならぬ「ねこバス」を走らせ、家人に気兼ねなく、かつ駐車場の心配もせず、乗用車の数を減らして、しかし便利さは今以上、といった運行を行う。若者、リストラサラリーマン、リタイア組などの雇用で運営する。今は携帯電話が普及しているので、コールセンターに一人は位置し、タクシーのトランシーバーのように場所を指定しながら、相乗り

を原則に自由自在に運行する。利用者は会員制にして初期経費を確保する。

**第五**は雇用促進のための**人材派遣**、「**助っ人参上**」である。家事援助、庭整備、ゴミ出し、雪かき、病院への同伴、ベビーシッター、留守中の庭の水やり、買い物、簡単な大工仕事、留守番、車の掃除、など様々な生活上の援助を行うために人を派遣するセンターだ。高校生や大学生のアルバイトとしても有効であろう。需要はたくさんある。供給もできる。問題はコーディネートが必要とされているのだ。エコマネーの導入を考えてもいいだろう。だが、学生のように現金収入の欲しい人はそれを現金に換金するルールをつくっておけば、彼らたちの参入も期待できる。

**第六は「お達者倶楽部」**という高齢者向けのパソコン教室の開設を行う。これには現役技術者の助けに追うところが多い。もちろん、男女平等参画社会の形成に向けて、企業サラリーマンの残業が減り、有給休暇がきちんと

消化され、サラリーマンが地域で活動できる時間が保障されていなければならない。それまでは学生等を教師として働めていく。場所は少・中学校のあき教室を使う。

**第七は「地球市民ハウス」**事業。海外の留学生や長期滞在者のホームステイ先の紹介とその運営である。大学が多数ある八王子ならではの事業でもある。日本の住居費はかなり高い。留学生にとって、適切なホームステイ先は日本の理解、日本語の学習と合わせて、願ってもないことである。外国のようにホームステイが普及しないのは住宅の狭さにあるが、この地区の住居環境、そして子どもたちが都心へとでていって、あき部屋があることを考えれば、国際貢献に役立つ現実的なプランである。実際、我が家に一ヶ月、イギリス人の女性をホームステイさせた経験から是非実施したいことである。ただ全く無料で、食事代は持ち出しというのでは困る。ステイ先に適切な部屋代、食事代を支払うべきである。

**最後のまとめとして**

「２１世紀市民クラブ」が活動していく上でも、北野駅前地区との連動は欠かせない。ねこバスのロータリー乗り入れについても、理解が得られなければその利用価値は半減してしまう。タウンホール内に事務所をもち、いつも関係団体と協議できる体制にしておく。駅前改造計画とその実施にもクラブとして積極的に関わることが大事だ。

このように駅前開発とそこを使う地区団体とが共同してまちづくりを担っていくことがこれからは求められている。その方法として、強力なリーダーシップを持った２，３人の核となる人からの発信とは異なり、すでにある地域の力を最大限活用し（資料１１）、ＮＰＯなどの小さな団体で小回りが利く自律した活動を積み重ね、ネットワークしていくことから始めたい。しかしいつでも全体構想を考えながらの活動を前提とする事を忘れてはならない。そのための学習会が必要だ。